

した。シバラーに対して染色体上の同坐性を示す mld でも、シバラーと同様なミエリン塩基性蛋白質(MBP)の発現障害がある。シバラーでは MBP 欠損があるのに対して、mld では部分的な発現を示した。分子生物学的解析によりシバラーでは、MBP 遺伝子の 3～7 のエキソン・イントロンが欠失しているのに対して、mld では、遺伝子が tandem に重複しており、そのうち一つは 3～7 のエキソン・イントロンが逆向きに配列していた。jumpy 突然変異ではミエリン PLP(プロテオリピド蛋白質)遺伝子の第 5 エキシソンの splicing 障害を示した。

3. 実験動物における発生工学の進歩

豊田 裕 (東京大学医科学研究所)

哺乳類の初期胚を実験的に操作し、発生過程を改変して、その仕組みを明らかにするとともに、有用動物の作出を目指す研究は、発生工学と呼ばれ、急速な発展が期待されている。とくに、実験動物学の分野では、疾患モデル動物作出のための新しい手法としての期待が大きい。これらの研究には、まず、多数の良質な初期胚を得るための技術および初期胚を発生させるための培養系を確立することが必要である。現在、マウスでは、ほぼ満足できる手法が確立されているが、その難易には系統差がある。他の動物では、初期胚の培養自体が困難である。ここでは、これらの発生工学を支える基礎技術について概観し、さらに、胚の分割、キメラ、核移植、遺伝子導入など、発生工学研究の実験動物科学における役割について展望する。

昭和62年度役員会報告

昭和61年度には、下記の2回の役員会が持たれた。

第1回役員会

昭和62年9月5日(土)午後13:00～13:30まで、岡山大学薬学部学部長室において開催された。議題ならびに討議内容は下記の通りである。

①昭和61年度の会計監査について……昭和61年度(昭和61年1月1日～昭和62年3月31日)の会計報告の監査が昭和62年7月28日中江利孝、高橋

正侑両監事によってなされ、御承認を得た。

②研究会々員の動向について……昭和61年9月の99名から、昭和62年7月では112名となり、8月に3名、9月5日(第14回研究会当日)に3名の入会があり、計118名になった。また県内会員数が約60%の割合を占めることが報告された。

③次期(第15回)研究会の開催について……本研究会は昭和57年12月7日(土)に発足して、5年目を迎えることから、次期研究会は5周年記念にふさわしい内容を企画してみてもどうかという意見が提案され、その方向で検討することが了承された。

④第6号の発行について……昭和63年4月に発行を予定しているので、会員の皆様から原稿を募集していることが出された。

第2回役員会

昭和62年12月5日(土)午後13:00～13:30まで、岡山郵便貯金会館錦の間において開催された。議題ならびに討議内容は以下の通りである。

①第15回研究会の取り組みと経過について……第15回研究会は創立5周年記念にふさわしい内容とするため、常務理事が中心になって企画し、会長の御承認を得て、本日(12月5日)の運びになったことが報告された。

②次期(第16回)研究会の開催について……第16回研究会の開催場所について三谷恵一先生(岡山大・文学部)にお願いしたところ、心よく引き受けていただいた。

③研究会々員の動向について……会員数は、現在、124名になったことが報告された。

④第6号研究会報の発行について……来年4月に発行を予定しているが、本日の特別講演の要旨を、講演者をお願いして、できれば3題とも会報に掲載したい旨報告があった。

岡山実験動物研究会の5年間の活動

佐藤 勝紀 (岡山大学・農学部)

岡山実験動物研究会が発足して、早いもので5年目を迎えました。この間、会員ならびに会員外の方々から、多大のご理解とご支援を頂き、本研

研究会の活動が着実に進められてきています。本研究会はこれまで15回開催されておりますが、ここで、これまでの5年間の活動を振り返ってみます。

第1回岡山実験動物研究会：昭和57年12月7日、岡山市郵便貯金会館で開催。設立総会。特別講演「実験動物における発生のひずみの技法別研究法」—永井 廣教授（岡山大・歯学部）、「岡山実験動物研究会の今後のあり方」についての討論。

第2回岡山実験動物研究会：昭和58年4月30日、岡山大学農学部で開催。研究会会則についての審議、承認。特別講演「哺乳動物による変異原性試験」—土川 清先生（国立遺伝学研究所、静岡実験動物研究会会長）、「実験動物研究における最近の話題」—猪 貴義教授（岡山大・農学部）

第3回岡山実験動物研究会：昭和58年9月30日、重井医学研究所で開催。映画上映「染色体上に書かれたネズミの歴史」—吉田俊秀先生（国立遺伝学研究所、細胞遺伝部長）編集。特別講演「哺乳類発生学の基礎と応用」—館 鄰先生（東大・理学部）

第4回岡山実験動物研究会：昭和58年12月3日、林原生物化学研究所、藤崎研究所で開催。特別講演「林原生物化学研究所の概要」—栗本雅司先生（林原・藤崎研究所所長）、「実験動物の開発—特にその遺伝学的手法について」—永井次郎先生（カナダ農商務省研究所、部長）

第5回岡山実験動物研究会：昭和59年5月19日、岡山大学歯学部で開催。特別講演「先天異常に関する動物データの解釈—とくにヒトへの外挿」—西村秀雄先生（京都大学名誉教授）、「Genetic engineering in Dentistry」—Harold M. Slavkin 教授（南カルフォルニア大学）

第6回岡山実験動物研究会：昭和59年12月8日、岡山大学医学部で開催。特別講演「動物実験と私」—小川勝士教授（岡山大・医学部・病理学教室）、シンポジウム「実験動物の飼育・手技・管理・購入における問題点」（6演題）新薬開発における動物実験の問題点—亀井千晃先生（岡山大・薬学部）、中央動物施設運営における人間の意識調査の問題について—北 徳先生（川崎医大・岡山実験動物センター）、岡大医学部附属動物実験施設における管理運営上の問題点とその対策について—倉林

譲先生（岡山大・医学部・動物実験施設）、ハムスター新生児の胸腺摘出と問題点—元田龍一先生（林原生物化学研究所）、重井医学研究所動物実験室の現状と問題点—内藤一郎先生（重井医学研究所）、岡山大学農学部における実験動物の飼育管理の問題点—佐藤勝紀（岡山大・農学部）

第7回岡山実験動物研究会：昭和60年4月27日、岡山大学薬学部で開催。一般講演（7題）実験動物の薬効評価への応用—赤木正明先生（岡山大・薬学部）、マウスにおける体重選抜とその効果—河本泰生先生（岡山大・農学部）、実験用ウサギに寄生するウサギツメダニについて—小郷 哲・北 徳・山下貢司先生（川崎医科大・実験動物飼育センター）、我々の飼育したハムスターにおける自然発生腫瘍について—矢部芳郎先生（岡山大・医学部）、経験に基づく実験動物の行動変容—三谷恵一先生（岡山大・文学部）、小動物の水洗ラックでの飼育、特に出産について—河口充宏先生（林原生物化学研究所）、実験動物飼育施設より分離される緑膿菌の血清型について—北 徳・山下貢司先生（川崎医大・実験動物センター）山口 司先生（川崎医大・附属病院中央検査部）

第8回岡山実験動物研究会：昭和60年9月28日、川崎医科大学で開催。一般講演（4演題）実験用ウサギの無菌人工哺育について—小郷 哲・北 徳・山下貢司先生（川崎医科大・実験動物飼育センター）、ラットの実験系球体腎炎の起きやすい系統、起きづらい系統—佐渡義一・内藤一郎・沖垣達先生（重井医学研究所）、川崎医大メディカルミュージアムにおける肉眼標本の作製：実験動物の利用について—広川満良・三宅康之・原田由美・上野幸子先生（川崎医科大学）、中央実験動物施設の備えるべき機能とそれを機能させるに必要な条件について—北 徳先生（川崎医大・実験動物飼育センター）。交見会：テーマ1「動物実験施設中央化の得失」、テーマ2「動物実験における研究者と技術者の役割分担」

臨時特別講演会：昭和60年11月5日、岡山大学農学部で開催。「ポーランドにおいて医学生物学研究用に対して新しく開発された近交系マウスならびに Congenic strain マウスについて」—Alina Czarnomska 博士（ポーランド・ワルシャワ癌研

究所)

第9回岡山実験動物研究会：昭和60年12月14日，ノートルダム清心女子大学で開催。一般講演（5演題）実験動物とミネラル，Ratを中心として—高橋正侑先授（ノートルダム清心女子大），草食小動物における大腸の飼料消化能—坂口 英先生（岡山大・農学部），Golden Hamsterの生育に及ぼす給餌・給水条件の影響—河口充宏先生（林原生物化学研究所），ゴールデン・ハムスターの成長における性二型について—山田明央氏（岡山大・農学部），抗生物質とアルコール—亀井千晃・田坂賢二先生（岡山大・薬学部）

第10回岡山実験動物研究会：昭和61年5月10日，岡山大学農学部で開催。一般講演（4演題）自動水洗ラックによる実験用小動物の大量飼育—河口充宏・高橋太郎・馬場洋子・二浦久江・佐藤芳範・栗本雅司先生（林原生物化学研究所），顆粒球系骨髄細胞の増殖について—中矢直樹，田坂賢二先生（岡山大・薬学部），霊長類胃粘膜の比較形態—鈴木一憲・永井 廣先生（岡山大・歯学部），実験動物としての日本ウズラの開発—佐藤勝紀（岡山大・農学部），シンポジウム「動物の集団をどのようにとらえるか」（3演題）昆虫の集団—吉田敏治先生（岡山大・農学部），動物集団の行動についての一解析—渡辺宗孝先生（岡山大・教養部），実験動物における社会構造と密度効果—河本泰生先生（岡山大・農学部）。

第11回岡山実験動物研究会：昭和61年9月13日，重井医学研究所で開催。話題提供（2演題）「MCH動物の開発」—田口福志氏（日本クレア）・斉藤宗雄・吉村幸夫先生（実中研），「バイオハザード対策の設備及び施設計画」—堀田 勝氏（日本クレア），特別講演「実験動物との付き合い」—妹尾左知丸先生（重井医学研究所所長），「原爆放射線がもたらした災害—レントゲンからチェルノブイリまで」—阿波彰夫先生（広島放射線影響研究所，遺伝学部長）。

第12回岡山実験動物研究会：昭和61年12月6日，林原生物化学研究所で開催。特別講演「実験動物におけるGenetic Monitoringの意義と役割」—山

田淳三教授（京都大学医学部），一般講演（3題）スキンスの歯の発生—近藤信太郎先生（岡山大学・歯学部），Dietary Fiberについて—中永征太郎先生（ノートルダム清心女子大），自動水洗ラックを用いた小動物の大量飼育—佐藤芳範先生（林原生物化学研究所）。

第13回岡山実験動物研究会：昭和62年3月30日，岡山大学医学部で開催。発生工学懇談会，岡山パイオ懇話会との共催。

フォーラム「生物のかたち作りの謎をとく—発生工学への道」記念講演 Nicole M. LeDouarin 博士（フランス科学振興機構発生学研究所所長），賛助講演「細胞をよりわかる分子と動物のかたち作り」—竹市雅俊教授（京都大・理学部）

第14回岡山実験動物研究会：昭和62年9月5日，岡山大学薬学部で開催。一般講演（7題）実験動物としての海産無脊椎動物—三枝誠行先生（岡山大・教養部），AKRマウスのけいれんと脳内モノアミン—片山泰人・加太英明・森 昭胤先生（岡山大・医学部・脳代謝研究施設），小動物の大量飼育における自動給餌器の開発—石川哲之・河口充宏・佐藤芳範・栗本雅司先生（林原生物化学研究所），倉林 譲先生（岡山大・医学部），マウスにおける自発行動と親行動について—野崎大典・猪貴義先生（岡山大・農学部），イヌのmigrating myoelectric complexに対するcholecystokininの作用—亀井千晃・田坂賢二先生（岡山大・薬学部），霊長類の胃粘膜における粘液物質の分布と機能—鈴木一憲・永井 廣先生（岡山大・歯学部），Wister系ラットの行動の時系列的分析—FT（fixed-time）のスケジュールを用いて—杉本完二氏（岡山大・文学部）。

第15回岡山実験動物研究会：昭和62年12月5日，岡山郵便貯金会館で開催。特別講演（3題）動物の行動における記憶の機制—平野俊二先生（京都市大・文学部），哺乳類中枢神経系の発生と分化—御子柴克彦先生（大阪大・蛋白質研究所），実験動物における発生工学の進歩—豊田 裕先生（東京大・医科学研究所）。